令和6年度

鹿児島県農業大学校評価シート

目標	課題	現 状	評価項目	※ 具体的方策	進捗状況（実施状況）	次年度の課題と改善策（R6）	
1 入学生 の確保	学生募集活動の強化による入試応募者の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナなど社会情勢の変化 ・特に令和3年度は新型コロナの影響で各種PRイベントを縮小。 ・高校生の絶対数の減少 ・学部・学科による応募者・入学者の変動 ・令和7年度の入学者数が過去5カ年平均より21人減。 	入学試験の応募数	1 学校紹介と学生募集活動の強化 (1) 高校訪問 80回以上(7月までに実施) 高校訪問資料を改善し、非農業系高校への推進強化 (2) 高校等への募集要項送付 160カ所 学生募集チラシの改善 (3) 高校教諭対象の説明会の開催 2回 (4) 農大生の出身校への訪問 10校10人 (5) 進路ガイダンス等への参加 20回以上 (6) SNS, マスコミ, 機関誌等を活用した 県外高校生への情報発信 農業大学校の資料請求サイトを利用した学生募集 (7) 学部別による募集働きかけ強化 ・ 校内外の販売の場を活用した学校紹介の強化（農学部）	1 学校紹介と学生募集活動の強化 (1) 高校訪問 4~12月 73校 82回 R5年度アンケート結果をもとに農大の魅力、普通科にも対応した高校訪問資料作成・活用 (2) 高校等への募集要項送付 6月 52校, 2月 78校 農大の進学にかかるPR, 学生活動写真を入れた学生募集チラシを作成, 送付 (3) 高校教諭対象の説明会 2回(5/13, 5/23) (4) 農大生の出身校への訪問 5校5人 (5) 進路ガイダンス等への参加 20カ所(3月末現在) (6) SNS, マスコミ, 機関誌等を活用した 県外高校生への情報発信 農大ホームページや Instagram, 新聞等で学生募集やオープンキャンパス情報を積極的に発信 スタディサプリ(資料請求サイト) 資料請求者72名, うち受験者: 2人 (3月末現在) (7) 募集働きかけ強化 ○ 校外販売の場を活用した 学校紹介の強化 41回 Aコープキラメキテラス, 南さつま市砂の祭典, 仙巖園, センテラス天文館 (8) アシスターレターの配布 3回	1 学校紹介と学生募集活動の強化の継続 ・ 県内高校生の減少や進路選択の多様化による農大受験者を確保するため, 県外の県人会へ情報提供することで, 受験者が増加するように取り組む。 ・ 次年度は, 学生の参画による学校PR活動を強化する。 ・ 情報発信力の強化…興味関心を引くコンテンツを共有し, 情報発信のマニュアル化を検討する。 (情報発信チートの連携) ・ 高校教諭対象の学校説明会の開催方法を検討し, 多くの高校教諭の参加を目指す。 ・ 各学科が柱とするカリキュラムの情報を発信する。 ・ 学生募集立て看板の設置 ・ JA 広報誌を活用した学生募集 ・ 学生や職員による農業系高校への出前授業	
				2 オープンキャンパス等による学校PR (1) オープンキャンパスの実施 ・ 1・2年生向けの開催(2月開催) (2) 小中高校生等の視察, 実習等の受入 (3) オープンキャンパス参加者の意向調査の実施	2 オープンキャンパス等による学校PR (1) オープンキャンパスの実施(5・8・2月) 学生が案内役となったオープンキャンパスの実施 参加者数 5/26 36人, 8/4 76人, 8/27 46人, 2/15 14人, 個別対応 1人 計173人 (2) 高校生等の視察, 実習等の受入 6校 162人 (3) オープンキャンパス参加者の意向調査 5/26 30人, 8/4 65人, 8/27 37人, 2/15 13人 計: 132人		2 オープンキャンパス企画内容の魅力アップ ・ 農大生の参画や新たな企画を追加し, 入試応募者数の確保につなげる。 ・ アンケート調査から, オープンキャンパスの開催時期は8月と5月の順で開催の時期を希望しているので継続して開催する。
				3 地域振興局や同窓会等との連携 (1) 地域振興局・支庁と連携した募集活動 ・ 入試情報の送付 ・ オープンキャンパスの対応協力 ・ 離島での進路ガイダンスへの対応協力 (2) 農大アシスターレターによる情報発信 (3) 同窓会広報誌を活用した学校PR	3 地域振興局や同窓会との連携 (1) 地域振興局・支庁と連携した募集活動 入試情報の送付 6月 16農政普及課(駐在含) ○オープンキャンパス対応協力 卒業生 6人 ○離島での進路ガイダンスへの対応協力 2回(熊毛, 沖永良部) (2) 農大アシスターへの情報提供 4回 (3) JA広報誌を活用した学校PR 3誌		

<自己評価まとめ>

- ・ 学校訪問や関係機関と連携による募集・周知活動は計画的に実施することができた。
- ・ 学校紹介と学生募集活動は, 各学部による取組等により多くの高校生に農大の魅力を伝えた。
- ・ 評価指標「入学試験応募者数」は目標104人以上(定員115人の90%)に対し, 61人。
【前年(89人)】
 令和7年度受験申込人数: 61人 (推薦32人+一般A18人+一般B6人+一般C5人)

評価指標	目 標	実 績	達成度	達成度
1 入学試験応募者数	104人以上	61人 B日程まで 推薦 32人 一般 26人	D 59%	達成度 A: 100%以上 B: 100%未満~80%以上 C: 80%未満~60%以上 D: 60%未満

目標	課題	現 状	評価項目	具体的方策	進捗状況	次年度の課題と改善策
2 学生教育の充実	学生の知識・技術向上	非農業系高校出身者、非農家等の学生が増えてきており、農業に関する基礎知識に格差がみられる。 コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が不足している学生が多い。	課題解決能力向上 資格取得への取組 ・全国プロジェクト発表会出場者 2名以上	1 学習能力向上への取組 (1) プロジェクト学習に対する学生の意識付けと指導強化	1 全国プロジェクト・意見発表会出場 3名 <内訳> (1) 養成課程 プロジェクト発表：特別賞 意見発表：優良賞 (2) 研究過程 プロジェクト発表：特別賞 <その他の実績> ① 県畜産共進会 若雌2区最優秀賞3席 父兄群区最優秀賞4席 ② 県フラワーコンテスト 金1点、銀1点、銅3点	養成課程、研究過程を含めて3名が全国プロに出場し入賞した。次年度の出場に向けた指導を継続していく。
			・ヤンマー懸賞論文等応募数 30編以上	(2) 論文作文コンクール応募への誘導、動機付けの強化 ・校内の応募者を増やす取組として、入学当初から、学生全員に対する作文指導や少数精鋭に対する個別指導を実施。	2 論文作文コンクール応募数 28編 <内訳> (1) 第36回ヤンマー学生懸賞論文・作文 論文の部： 2編 ※参考：入賞2編 作文の部： 23編 ※参考：入賞12編 (2) 毎日農業記録賞： 3編	論文作文で28編の作品を出品した。引き続き、学生に対する動機付けの強化と、的確な指導を実施する。
			・日本農業技術検定3級合格率 80%	(3) 専攻学習や各講義による農業技術検定3級の取得 ・農業に関する基礎知識の強化	3 日本農業技術検定3級合格率 ○ 合格者数 21名/受験者数 30名=合格率 70%	学生に対し基礎知識の理解と修得支援の強化を図る。
			・各種取得免許・資格数 9資格以上/人	2 各種免許、資格取得への取組 (1) 資格取得の推進と意識付けの強化 ・農大マイスター顕彰制度の周知と学生集会等における学生表彰 (2) 職員による希望学生に対する補習(農業簿記、危険物乙4等)	4 各種免許・資格取得状況 ○ 延べ合格者数 727名/卒業生 71名 =1人当たり 10.2資格 5 合格率向上対策(カリキュラム等による実施) (1) 農業技術検定3級：21名/30名=70% " 2級：13名/43名=30% " 1級：0名/4名=0% (2) 農業簿記検定3級：8名/24名=33% " 2級：3名/14名=21% (3) 危険物乙4類：4名/56名=7%	免許・資格取得数は目標を達成しており、引き続き取得指導に取り組む。 農業技術検定、農業簿記検定は合格率の向上とともに、学生へ資格取得を促し、受験者を増やしていくことも必要。
			・農家留学研修評価書の総合評価(優秀)70%以上	3 農家留学研修指導 (1) 専攻学習を通じて基本的な管理作業習得 (2) 農家留学研修の事前研修会の実施 (3) 農家留学研修日誌の模擬記帳指導及び農業機械操作の習熟度アップ	6 受入農家を招いての農家留学研修事前研修会 ○ 事前研修(共通1日、各学科研修を実施) ○ 農家留学研修評価 優秀 59%、普通 27%、要努力 14%	研修の事前指導を強化するとともに、受入農家との連携を図る。
				4 コミュニケーション力のアップ (1) 各種販売等で挨拶や礼儀作法、接客能力の習得 (2) 3分間スピーチ等でコミュニケーション能力の習得	7 校内販売等の実施(R6.1月末現在) (1) 校内販売実施数：38回 (2) 出張販売実施数：15回 8 3分間スピーチ実施学科(1年生) (野菜科、肉用牛科)	日頃の農場管理等で話をする場を設けるなど、コミュニケーションの実践を継続する。

<自己評価まとめ>

全国プロジェクト発表会や論文作文コンクール等で優秀な成績を収めたことで、本校プロジェクト学習の質・内容の高さを内外に示すとともに、他の学生にとって良い刺激となった。今後もコンクール等への積極的な応募を促していきたい。免許・資格の取得は、就農・就業に役立ち、学生の資質向上にも繋がるため、引き続き取得指導に取り組む。また、農家留学研修の評価は、昨年度より「優秀」の割合が増加した。日頃の学生とのコミュニケーションに留意しながら、学生の「考える・話す・聞く」力の向上に努めていく。

評価指標	目 標	実績(達成率)	達成度	達成度
1 全国プロジェクト発表会出場者	2名以上	3名 (150%)	A	A: 100%以上
2 ヤンマー懸賞論文作文等応募数	30編以上	28編 (93%)	B	B: 100%未満~80%以上
3 日本農業技術検定3級合格率	80%	70% (88%)	B	C: 80%未満~60%以上
4 各種取得免許・資格数	9資格以上/人	10.2 (113%)	A	D: 60%未満
5 農家留学研修評価書の総合評価(優秀)	70%以上	59% (84%)	B	

目標	課題	現 状	評価項目	具体的方策	進捗状況(実績)	次年度の課題と改善策																																												
3 就農・就業の進路指導の充実	進路指導充実による就農率の向上	<ul style="list-style-type: none"> 農大の目的を達成するために就農率を高める必要がある。 自分の適性や進路決定に迷うことがある。 インターンシップ等を活用して就農先を確定する等非農家出身学生の取り組みを強化する必要がある。 農業次世代人材投資資金受給希望学生の進路に応じて、資金制度の理解や個別指導を実施する必要がある。 <p>○就農希望者(就農相談会前後2年生)の就農者率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>希望者</th> <th>就農者</th> <th>就農率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 5</td> <td>41(8)</td> <td>36(6)</td> <td>88</td> </tr> <tr> <td>R 6</td> <td>45(12)</td> <td>37(11)</td> <td>82</td> </tr> </tbody> </table> <p>※()はうち自営・親元就農</p> <p>○インターンシップ先に就職した学生</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>インターン</th> <th>農家留学</th> <th>合計(名)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>13</td> <td>8</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>R 1</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>R 2</td> <td>20</td> <td>2</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>20</td> <td>6</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>R 4</td> <td>9</td> <td>5</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>R 5</td> <td>7</td> <td>0</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>R 6</td> <td>28</td> <td>7</td> <td>35</td> </tr> </tbody> </table>	年度	希望者	就農者	就農率	R 5	41(8)	36(6)	88	R 6	45(12)	37(11)	82	年度	インターン	農家留学	合計(名)	H30	13	8	19	R 1	9	9	14	R 2	20	2	21	R 3	20	6	22	R 4	9	5	13	R 5	7	0	7	R 6	28	7	35	<p>2年生学生数 76名(前年度60名)</p> <p>1年生76名</p> <p>○就農希望者の就農率(研究科4名含む)</p> <p>就農希望者数45名(前年41名)</p> <p>うち就農37名(36)</p> <p>就農者率82%(88)</p> <p>うち自営11名(6)</p> <p>○進路確定率100%(前年度97%)</p> <p>確定数76名(58)</p> <p><参考></p> <p>○主な進路</p> <p>就農:45名(前年36名)</p> <p>農業団体:11名(3名)</p> <p>関連企業:10名(6)</p> <p>一般企業等:2名(0)</p> <p>公務員:3名(3)</p> <p>進学・研修:5名(10)</p>	<p>1 進路への早期動機付け</p> <p>(1) サポート体制の充実</p> <p>①担任等の就農相談活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別面談での学生の就農に対する考え方の把握と支援 <p>②農業法人等との面談の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 就農就業相談会の充実 個別面談の推進 かごしま就農・就業相談会への参加 <p>③進路決定に対する意識啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職研修会等の実施 進路支援セミナーの実施 <p>④農業次世代人材投資資金活用指導(在学中)</p> <ul style="list-style-type: none"> 資金研修会による理解促進 申請時、給付後の個別 <p>(2) 早い段階での学生の就農・就業に対するイメージづくり</p> <p>⑤意向調査、面談の実施</p> <p>就職・就農事前研修会</p> <p>⑥休業期間中のインターンシップへの参加支援</p>	<p>(1) サポート体制の充実</p> <p>①担任等からの情報提供と進路指導(随時)</p> <p>二者面談等学生進路指導学生数 <2年生>進路確定76名/76名中</p> <p>②就農就業相談会(R6.6.14開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業法人・関連企業:71社参加(前年度67社) 関係機関・団体(振興局等):23団体参加(21団体) 農業法人訪問学生数 延べ348名:2.3法人/人(2.3) 全体プ-ス訪問学生数 延べ615名:4.0法人/人(4.1) <p>(夏期休暇前に法人との個別面談, インターンシップを推進)</p> <p>③進路決定に対する意識啓発(1年生対象)</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職研修会(R6.12.6開催) 講師:鹿児島労働局 雇用環境・均等室 講師:伊集院公共職業安定所 <p>④農業次世代人材投資資金活用指導</p> <p>新規申請者 1年生32名(31), 2年生2名(1) 計34名(32)</p> <p>継続申請者 2年生34名(25) 計68名(57)</p> <p>(2) 早い段階での学生の就農・就業に対するイメージ作り</p> <p>⑤かごしま就農・就業相談会への参加(R6.8.24開催)</p> <p>7名(18名):カクイクス交流センター(主催:鹿児島県農業・農村振興協会)</p> <p>⑥インターンシップ実施状況</p> <p>○<2年生>農学部17名, 畜産学部11名合計28名/延事業所数36社</p> <p>○インターンシップ先に就職した学生数 計28名, 農家留学先就職7名</p> <p>○<1年生>インターンシップ実施学生数 計13名/延事業所数20社</p>	<p>1 個別面談, 意向調査, 農業法人等との面談機会の設定を実施しながら, 就農希望者に対しては, 早い段階から就農意識の醸成とマッチングの強化を図り, 卒業時の就農率を100%達成できるよう指導する。</p> <p>2 1年時から進路への意識付けを積極的・継続的に行い, インターンシップを計画的に実施することで就職・就農を支援する。</p> <p>3 定期的な面談の実施, 研修・研鑽の機会を作りながら, 学生の希望をくみ取り, 意向に沿った各種研修への参加と就業活動を促す。</p> <p>4 振興局等関係機関との連携をスムーズに進めながら, さらに連携を密にして新規就農支援を促す。</p>
			年度	希望者	就農者	就農率																																												
			R 5	41(8)	36(6)	88																																												
R 6	45(12)	37(11)	82																																															
年度	インターン	農家留学	合計(名)																																															
H30	13	8	19																																															
R 1	9	9	14																																															
R 2	20	2	21																																															
R 3	20	6	22																																															
R 4	9	5	13																																															
R 5	7	0	7																																															
R 6	28	7	35																																															
			<p>2 就職試験に対する指導強化</p> <p>(1) ビジネスマナー講座(接客研修会他)の実施</p> <p>(2) 一般常識トレーニング研修の実施(1年生)</p> <p>(3) 就職情報コーナーの設置運用</p> <p>求人内容等の情報提供</p>	<p>(1) 接遇研修会(R6.6.10開催)69名受講(78名)</p> <p>(2) 一般常識トレーニング研修(1年生)</p> <p>公務員等試験合格を目指して通信教育を活用した一般常識の習得:一般常識(11/12, 1/15), SPI(総合適性検査)模擬テスト(12/10, 1/15), 作文添削(2/7)</p> <p>:野菜科2名, 畜産研究科1名(前年度計1名)</p> <p>(3) 職員室(求人票, 情報資料等)に設置運用</p> <p>学生への求人等情報提供:234件(3月25日現在)(220件)</p>																																														
			<p>3 経営基盤のない新規就農希望者の支援体制の強化(非農家出身学生等)</p> <p>(1) 就農就業相談会等による地域との連携強化</p>	<p>(1) 就農相談会等による地域との連携</p> <p>各振興局及び市町村から就農就業担当者との管内農業情勢等についての情報共有と相談の実施</p> <p>新規就農計画作成支援件数:18件(2年生)</p>																																														

<自己評価まとめ>

個別面談, 意向調査, 就農相談会等での農業法人・関連企業等との面談機会の設定, インターンシップの参加推進体制支援などにより, 早い段階からの就農・就業に向けた動機付け・意識啓発・イメージづくり・就農計画作成支援, 指導強化に努めた結果, 就農希望者のうちの就農者率は未達成であったが, 卒業時点進路確定率は目標に達した。進学や公務員, 農業団体, 関連企業等への多様な就職も増えており, 今後も学生の進路希望に応じた支援体制を充実させる必要がある。

評価指標	目標	実績	達成度	達成度
1 就農希望者のうち就農者率	100%	82%	B	A:100%以上 B:100%未満~80%以上 C:80%未満~60%以上 D:60%未満
2 卒業時点での進路確定率	100%	100%	A	

令和6年度 鹿児島県立農業大学校評価シート

目標	課題	現状	評価項目	具体的方策	進捗状況	次年度の課題と改善策
4 情報発信の強化	魅力ある農大を発信	<ul style="list-style-type: none"> これまでの農大における情報発信の取組概要 <ul style="list-style-type: none"> ①県HPに「学生募集」や、イベント情報（入学式、卒業式等）などの掲載 ②プロジェクト発表の入選者や学生が取り組んだ行事（農大祭等）を盛り込んだ冊子（農大この1年）を関係機関、高校等に配布 ③直近の農大生の活動状況等を盛り込んだ「アシスタター」を卒業生等に配信 ④令和3年度からInstagramの取組を開始 	1 公式Instagramフォロワー数 (R4実績：687名) (R5実績：1,055名)	1 Instagramのフォロワー数の増加 (1) 農大内の情報収集・発信体制の充実による年間アップ回数（R6：115回）の増加 (2) ターゲット層（若い年齢層）に合わせた情報発信（寮生活、部活動などの配信）※一部ライブ配信 (3) ターゲット層（若い年齢層）による評価の活用（ターゲット層と同世代の学生にアンケート等の実施） (4) 運用ガイドラインの一部見直し	1 Instagramのフォロワー数の増加 (1) 更新数を増加させるために、チーム会で検討（8月） ・フォロワー数：1,556名（R7年3月31日時点） ・アップ数：115回（R7年3月31日時点） (2) 様々な場所・場面での学生生活の写真（農場、寮、講義、発表会、農大祭、販売、機械稼働等）を掲載一部短編動画（リール動画等）を活用し、発信力を強化。 ※学生による撮影写真（例：技能講習練習風景等）を積極的に活用 (3) 効果的な発信の参考とするため、学生を対象にアンケート実施（R6.10月） 3割を超える学生が入学前に参考に行っていることが分かった。 (4) 運用ガイドラインの一部見直し（R6.6月チーム会 7月変更 広報課へ修正連絡済み） 効果的な発信に向け、農大Instagramのアイコンを親しみのある農大のめぐみに変更（R6.8.27） また、関係する農業高校等の情報を得るため、県内農業高校Instagramのフォローを実施（R6.8.27）	（次年度の課題） 投稿カレンダーを作成し、タイムリーな情報発信を行う。 目標 ア フォロワー数 1,800名以上 ※現況（R7.4中旬） イ 更新回数 1,584回 130回
	2 農大紹介ビデオを様々な人に見てもらい魅力を知ってもらう必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 上記の取組は行っているが学生の農大での活動情報が少ない。そもそも、学生が生き生きと活躍している情報が少ない。 	2 農大紹介ビデオ活用数 ※ R3事業でビデオを作成した為、R3実績はなし (R4実績：31回) (R5実績：35回)	2 農大紹介ビデオ（動画）等の活用 (1) 引き続き各種行事でフル活用 <活用目標> ○進路ガイダンス（15回） ○農大視察研修（10回） ○オープンキャンパス（3回） ○農大祭、連携会議等（5回）	【R6農大紹介ビデオ（動画）等の活用実績（R7.3.31時点）】 ○進路ガイダンス（4回） ○農大視察研修（12回） ○オープンキャンパス（3回） ○農大祭、連携会議等（17回） 計36回 ※前年35回 ※R6年度以降に作成したビデオを使用する。	（次年度の課題・改善策） 農大紹介ビデオ等の活用 ○進路ガイダンスと研修視察 25回 ○オープンキャンパス 3回 ○農大祭、連携会議等 7回 計35回
	3 ホームページの内容充実に努めているが、閲覧数は年々減少傾向であり、HPの更新や紹介を図る必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ⇒ 入学確保のターゲットとなる若い年齢層に魅力ある農大を発信できていないのでは？ 	3 県ホームページ閲覧数 (R4実績：3,072回) (R5実績：2,921回)	3 県ホームページ閲覧数の増加 (1) HPの内容充実 ・時期ごとに主要行事等をHP先頭ページ等に貼り付け ・各科別の内容（情報等）充実 (2) イベント等における農大HPの紹介 ・校内販売における二次元コード紹介 ・アクセスの多い校内販売からインスタへの誘導	3 県ホームページ閲覧数の増加 (1) ホームページ検索実績（R6年4月～R7年2月） 4月：3,215、5月：2,976、6月：2,665、7月：2,513 8月：2,217、9月：2,241、10月：3,066、11月：3,052 12月：2,754、1月：2,504、2月：3,180、3月：2,591 平均：2,748回（R5同時期平均：2,921回） ・各科の内容情報等の更新 ・ホームページにタブを作成し、知りたい情報にアクセスしやすいように変更 ・県庁公式LINEを活用し、農大HPを紹介 (2) ・新しい「農大のめぐみシール・カード」を作成し、農大祭やたわわタウン等で販売する農産物に添付。 ・販売先で農大紹介資料を配付 ・校内販売時にパネルを活用した二次元コードの紹介	（次年度の課題・改善策） 若い世代はInstagram等のSNSでの情報収集が主となっていると考えられるため、閲覧数の増加は期待できないことから、ホームページの内容充実を目指し更新数へ指標を変更する。 ホームページの定期的な更新回数 学生募集等 3回 イベント報告等 14回 教育のとりくみ等 8回 合計 25回

<自己評価まとめ>
 ・毎月チーム会を開催し、外部評価会の指摘を踏まえて、具体的方策の進捗状況をチーム員で確認・情報共有した。
 ・公式Instagramフォロワー数については、学生が撮影した写真等の使用やアンケート結果を投稿内容に反映させた結果、フォロワー数増加につながった。
 ・農大紹介ビデオ活用数については、農大で実施する各種研修や就農相談会など様々な場面で活用を図ることができた。
 ・県ホームページの閲覧数については、閲覧しやすくする取組や新しく二次元コード付きの「農大のめぐみシール」の活用等を図ったが、目標には届かなかった。次年度は評価指標の変更を含め、魅力的な農大を発信するための内容充実に努める。

評価指標	目標	実績	達成度	達成度
1 公式Instagramフォロワー数	1,200名以上	1,473名	A	A：100%以上
2 農大紹介ビデオ活用数	35回/年	36回/年	A	B：100%未満～80%以上
3 ホームページ閲覧数	3,500回/月以上	2,762回/月	C	C：80%未満～60%以上 D：60%未満